

りょうぜん・あたみまち市民共同発電所 10周年

まだ終わらない原発被害、農業とエネルギー生産

りょうぜん市民共同発電所の見学



福島農民連・佐々木事務局長の案内で見学をしました。「元は桃畠だった。原発事故で汚染された場所だ」「農民連のエネルギー自立による農村地域の再生をめざす取り組みはここから始まった」「自然エネルギー市民の会や多くの出資者の協力で完成了、完成して農民連も農家も、やれる自信がついた」と当時の様子を話されました。

間伐材で作られた発電所の柵の修理、除草など、日常の管理は農民連の方にお世話になっています。

りょうぜん発電所に隣接している県北農民連第1発電所も同時に完成しました。

農民連と参加者の交流会



初めに「地球沸騰化防止のために再エネ 100%社会を！」をテーマに和田武・PARE 代表の講演があり、その後、参加者全員から自己紹介が行われました。

出資者からは「完成したときの祝う会にも参加した、また来れてよかったです」、農民連の参加者からは「私はシイタケの原木栽培をしている、原発事故から 13 年たったが、今も地元の木材が使えず、原木は他県から取り寄せている。山菜は採取を禁止されている。まだ原発事故は終わっていない」など、今も続く原発被害を話されました。続いて農民連と PARE の取り組み、活動の紹介を行いました。

二本松営農ソーラー、垂直営農ソーラー、農民連のソーラーシェアリングの見学

福島県二本松市にある農業と太陽光発電を組み合わせた営農型発電(ソーラーシェアリング)の農場と垂直営農ソーラーを二本松営農ソーラー株の近藤社長の案内で見学しました。また、農民連のソーラーシェアリングを農民連の佐々木事務局長の案内で見学しました。

二本松営農ソーラー株は、二本松ご当地エネルギーをみんなで考える株(ゴチカン)、みやぎ生協・コープふくしま、(NPO)環境エネルギー政策研究所 (ISEP) の 3 社により運営されている営農型発電会社です。

ソーラーシェアリングは、農地に間隔を取ってソーラーパネルを設置し、作物とパネルで太陽光

をシェアして農業と発電を両立する仕組みです。



二本松営農ソーラーの全景

(二本松営農ソーラー株ホームページより)

二本松営農ソーラーの見学



設備概要 :

- ・設 備 両面モジュール 410W×9,516 枚(3,901.6kW)
パワコン 16.5kW×117 台(1,930.5kW)
- ・初年度年間想定発電量 3,710,700kWh
(一般家庭 618 世帯分)
- ・敷地概要 : 東西 550m、南北 220m、うち農地 6.3ha
二本松営農ソーラー(株)ホームページより

杭は4mで地中に1.3m打ち込み、杭間は3.5mとなりトラクターなどの農業機械が通れるようになっていました。ソーラーパネルは両面パネルを採用し散乱光を効率よく利用し、夏場で+5%、冬場に雪が積もると+15%アップするそうです。農場では1人1本のブドウの樹に命名する「Sunshine サポーター」制度を行っており、サポーター権は年間15,000円ですが、名前を付けた樹から収穫したブドウ1.5kgを9月頃に送る、命名札を樹に飾る、サポーター限定イベントを開催するなどを行っていており、98本の植えたブドウの樹は完売したことでした。ちなみに命名は、ペット、孫の名前、自分の目標の順に多いそうです。

見学時にはパネルの下でシャインマスカット、小麦、大豆、にんじんが栽培されていました。牛の放牧もするそうです。

近藤社長は、「シャインマスカットの販売で安定的な収入を得るには3~5年かかる、その間の費用は売電収入で賄う計画だ、売電で得た利益は農家の持続的な経営を支えることになる」と話されていました。

二本松営農ソーラー(株)は、この事業を始めるために農地所有適格法人(株)Sunshineを設立して2名を雇用し6haの農地を所有して営農を行ってることです。

「垂直営農ソーラー」の見学



日本初「垂直営農ソーラー」で、両面モジュールを採用しています。モジュールは東西と南北方向に設置され、発電量は一般的な野立てに比べ、東西方は85~90%、南北はさらに3%落ちるが、他の太陽光発電の発電量が落ちる8時と4時頃にピークがくるメリットがあることです。モジュール間隔は8mで、牧草の刈取りに支障がないようにしていました。

農民連のソーラーシェアリング見学



農民連・佐々木事務局長の案内で見学。架台の間隔は3.5m、高さを十分にとり農業用機械が通れるようにしていました。パネルによる遮光率は32~33%。ここでは大豆の有機栽培を行い、近くの味噌加工場で味噌してもらう予定とのことです。

(PARE 事務局次長 中庄村和)